

ある町の天気相談所

Vol.90 2025.06.06

令和7年6月号



最近の梅雨の時期について

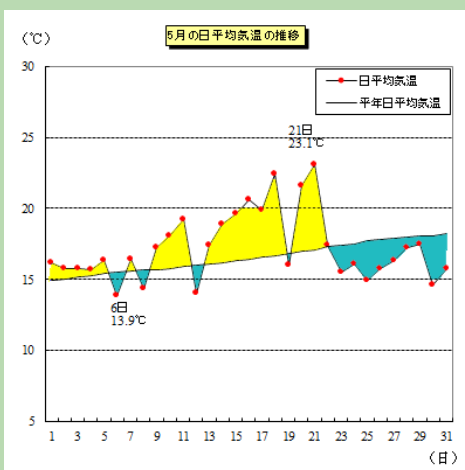
2025年の関東地方の梅雨入りの発表は6月5日現在まだありませんが、平年では6月7日頃となっており、まもなく梅雨の季節になってきます。

近年の梅雨入りと梅雨明け

	梅雨入り	梅雨明け
平年	6月07日	7月19日
2024年	6月21日(平年より14日遅い)	7月18日
2023年	6月08日(1日遅)	7月22日
2022年	6月06日(1日早)	7月23日
2021年	6月14日(7日遅)	7月16日
2020年	6月11日(4日遅)	8月01日
2019年	6月07日(0日)	7月24日
2018年	6月06日(1日早)	6月29日

5月の気候

5月は、短い周期で天気が変わり、後半は前線が本州の南岸に停滞することが多くなりました。前半は気温が高くなりましたが、後半は低い日が多くなり、月平均気温は17.2度と平年並になりました。雨が降った日が多く、日ざしは少なかったため、月合計降水量は259.0ミリと平年の163パーセントと多く、月合計日照時間は126.5時間と平年の73パーセントと少なくなりました。



一ヶ月予報 (気象庁発表)

暖かい空気に覆われやすく、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。平均気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並み」、日照時間は、「ほぼ平年並み」となる見込みです。

梅雨

春から盛夏への季節の移り変わりの時期に、日本から中国大陸付近に梅雨前線と呼ばれる停滞前線が出現します。一般的には南北への移動を繰り返しながら、沖縄地方から東北地方へゆっくり北上します。梅雨前線が日本付近にあると、雨や曇りの日が多くなり、梅雨入りと梅雨明けが気象庁から発表されます。梅雨入りの日の平年を調べてみると、沖縄は5月10日頃、九州南部が5月30日頃、九州北部から関東甲信地方が6月4日から7日にかけて、北陸が6月11日、東北南部が6月12日、東北北部が6月15日と、南から次第に北上していく傾向があります。今年の梅雨入りは、九州南部が5月16日に全国で最初に梅雨入りし、続いて奄美地方となっています。5月上旬頃には沖縄地方に前線が停滞しましたが、期間があまり長くなく、その前線が5月16日頃から九州南部付近に停滞するようになったため、沖縄の梅雨入りは5月22日と平年より12日も遅くなりました。5月下旬は関東付近ではまだ南の海上に停滞することが多くなっています。

今の時点での発表はまだ速報値のため、秋に再度検討されて、梅雨の期間が確定します。そのため、変更になる可能性もあります。

天気用語の基礎知識

土壌雨量指数

降った雨による、土砂災害の危険度の高まりを把握するための指標。大雨に伴って発生する土砂災害はこれまで降った雨による土壌中の水分量も深く関係しており、これまで降った雨が、土壌中に水分量としてどれだけとどまっているかを数値化したもの。その地点での大雨警報等の判断基準は、過去の災害などをもとに計算されており、これと現在の値を比較することでその地点での、土砂災害の発生の危険度を判断することができます。(参考: 気象庁ホームページ)

・・・神峰の山から・・・

昨年の6月号のこのコーナーでも携帯電話の予想していない作動を書きましたが、この時期はこのような事が起こる時期なのか、予想していないような動作がありました。電話がかかってきたので出たのですが、どうも、相手に私から着信があったようで、折り返しかけてきた模様。でも、こちらは電話をかけてなく、かけた履歴も残っていませんでした。相手の電話機は確認していないので、本当に着信があったのかは不明ですが、ちょっと怖くなる現象でした。

なお、電話は今年更新したので、昨年とは違う電話機でした。